

# 神の国にはいるには

# 「神が知るものへ 狭いもんから入る」

ルカ13：22-30

## ■見方の違い。

一人の男性がいました。その男性は大酒飲みで、妻に暴力を振るい、双子の息子たちにも暴力を振りました。やがて妻は出て行きました。暴力の矛先は双子の息子に向かい、毎日、殴られ続けました。やがて双子は大人になり、それぞれに家庭をもちました。ある心理学者が、暴力を受け続けたこの双子のケアにあたり、研究をしました。

ひとは、父親と同じようにお酒を飲み妻や子どもに暴力を振りました。心理学者が「なぜこのようなことをしたのか。」と尋ねると、「当たり前では無いですか？私は他に選べる道がありますか？私は父親に殴られたことしかないのに、違う道を選ぶ事なんかできるでしょうか？」と言いました。しかし、もうひとりの双子の兄弟は、仕事も家族との関係も豊かで、日曜日には家族みんな一緒に教会へ行くような人生を送りました。心理学者は、「なぜ、あなたはこのような人生を選べたのですか？」と尋ねました。そうすると、「私には他に選べる道があったのでしょうか？父親からあんなに酷い目にあって、私がおの道を選ぶことができるでしょうか？私は家族を愛し、自分を大切にすることを学びました。」こう言いました。

どちらも環境は一緒でした。でも一人は、良い方を選び、ひとは間違っただけでした。

何が違ったかという、「見方」が違ったのです。聖書は、「狭い門から入りなさい。」と伝えています。そして努力して選ばないといけないとされています。

## ■ 神の祝福された恵みの地へ入る為には

「主・イエスを信じなさい。そうすればあなたもあなたの家族も救われます。」神の国に入る為にはしなければいけないこと、「救い」について、聖書にはこう書いてあります。では、神の祝福された恵みの地へと入るにはどうすれば良いのでしょうか？

私たちは、神様に似せたものとして意思を持って決断し、先を見ながら判断することができるように創られています。神様は「全能」のお方で全てを知っておられます。この神様と、神様に似せて創られた私たちが一緒に歩むなら素晴らしい道を歩めないはずがありませんでした。ではなぜ、私たちは素晴らしい道を歩む事ができないのでしょうか。それは、神様と一緒に歩む道からいつしか道を外し、全能の神様からも距離をおき、自分の優越感を得る為他人と比較をするなど間違っただけの人生を歩んでいるからです。

しかしそんな人間にもう一度本当の土台を築いて全能者である神様と共に歩むように、狭い門を見出すことを言われています。しかし私たちは狭い門を見出すのではなく、いつもだいたい、その隣にある大きい門を選んで進んでいます。

## ■ 「狭い門」を選ぶ

人は、一日に3万5千回、様々な事を判断しているといわれています。人間は先を見ようとする事はできても、先はわかりません。だからこそ私たちは全能である神様と共に歩んでいます。【ルカ13：31】この時、王の次に偉いリーダーがイエスキリストを殺そうとしているという情報がイエス様の元に入りました。これは、どうにかイエスを殺そうとしているパリサイ人達の悪巧みで嘘の情報でした。

イエス様は、この本当かもしれない嘘の情報について【ルカ13：32】「行ってあの狐にこう言いなさい。---」と言われました。「狐」とは狡猾の象徴であり、脅かされて生きている動物です。ヘロデアンティパスもローマも群衆にも恐怖を抱い

ていました。イエス様は目の前に起きた現象について事実なのかそうでないのかを見極めました。私たちは人生で神様にしなさいと言われていたことがあります。しかしそのことを脅かす誘惑が多くあります。その誘惑とは、あなたの人生に大きな影響を与える事はないかのように思える小さなことの連続です。

しかしその小さな嘘の情報は、人生の大切な部分を覆ってしまうような重大なことを変えようとしてきます。

ヘロデアンティパスとパリサイ人とローマも群衆、彼らは自分の在り方を保つために大事な人生の計画を無にしようとしていました。メンツや立場を保つために、しなければならなかった判断をさせませんでした。結果、恵みは去っていきました。

## ■ 雄々しくあれ

「努力して狭い門から入りなさい」

○努力「アゴーニゾマイ」とは、マイノリティコンプレックスを指しています。この努力を見ていく時に、「からし種」「パン種」の例えが出てきます。

「からし種」とは一粒の種が、鳥が住めるような偉大な木になるという例えで書かれます。

「パン種」とは、間違っただけの教えは大きく膨らんでいく、偽りの教えも大きくなる、また神様の小さな言葉は大きく広がるという意味があります。

これらの後に、「努力」という言葉が出てきます。この「努力」という言葉の原型は「ヒットアンメツ」…ここには「雄々しくあれ」という意味があります。あなたが、神様からこう在るべきだと言われている道を歩もうとする時に、誘惑をしてくる日々目の前に起こる小さな出来事、その中で雄々しくあれと神様は言われているのです。マイノリティについて世の中は服のセンスや個性について言いますが、これは私たちの信念です。

## ■ 決断

世の中は、誰かがこうだという道をみんなに進み、文句を言う時はみんな文句を言います。だからこそクリスチャンは、目の前で起こっている悲劇を福音化してかなければなりません。努力して狭い門から入りなさいということは、神様が言われた道を選ぶことです。大勢がこうあるべきだと言っていたとしても、神様が言われた道を選ぶことです。逃げたくなることもあるかもしれませんが、しかし信念をもってどんな情報にも右往左往せず、誘惑に負けずに進むためには、神様の計画に生きる決断ができるかどうかなのです。

(要約者:富岡 牧)

(2023年11月19日)